

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	グループホーム田口の理念がある。	「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、安心して生活を送っていただけるよう支援いたします」と理念を玄関に掲示し職員一同で共有している	全職員は理念を充分理解して支援の実践に当たっているが、ミーティング時や申し送り時に合言葉として唱和されることが望まれる。
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	日常的な関わりはあまりないが、行事を通じて交流ができるよう努めている。	日常的な交流は少ないが、地域の民生委員から誘いがあり夏祭りに数人の利用者が参加している。	地域密着の施設としてより交流を進展される為にホーム長のための働き掛けでなく、法人として地域代表者等に働き掛けをされることも一策と視われる。
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	実施していない。		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	会議では、利用者の状態やサービスの内容等の報告を行っている。出席者に意見や助言頂き、その後のサービス向上に努めている。	運営推進会議には利用者、家族代表、民生委員、包括、施設長、管理者が出席し、ホームの現況、事故の報告、行事の報告と今後の行事予定等を説明し、出席者より意見や助言を頂き、ホームの運営やサービスの向上に生かしている。職員には後日文書で伝達して共有している。	運営推進会議に市役所、消防署や社会福祉協議会等に参加を要請され、ホーム運営により一層の参考意見が寄せられることが望まれる。
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	利用者の入居についての相談や、書類の提出等で助言していただいている。	主に地域包括センターとの交流はしているが、市との直接の話し合いは行っていない。	法令や書類記入の変更等が或るときは細かい部分でも市に直接相談して、交流を持たれることが望まれる。
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	身体拘束をしない方向で対応を検討し、工夫している。	法人全体で身体拘束をしない取り組みをしている。病院より車椅子の安全ベルトを着けられ退院された利用者のベルト外しを実行出来た等職員全員で身体拘束をしないケアに努めている。	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修等で学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように職員間で注意を払っている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	必要時には支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には、家族等の不安や疑問点を伺い、理解・納得を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時や電話連絡する際に、意見・要望を伺うようにしている。面会時にアンケートをお願いしている。	職員は日常の利用者への寄り添ったケアの中で会話や表情で要望をくみ取り、業務日誌等で共有し運営に反映している。家族の方には電話時や面会時にアンケートに答えて頂くなどして要望を取り入れている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を書いていただくアンケート用紙があり、月一回その用紙を開票し、会議等で検討している。	職員用の「意見・提案用紙」が毎月配られ利用者へのサービス面、職場環境、地域との関わり等について意見を述べる事が出来る。法人は個人的に発案された意見を検討し運営に反映されることもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	実際の現場に訪問する等して、話をする機会も作っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々の状況を把握し、必要な研修を受けて頂いている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流はある。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人の生活歴や家族状況等を、利用者本人や家族に聞く等して職員が把握できるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>契約時に、入居されるまでの利用者本人・家族の状況を伺い、家族の思いを共感できるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人の現状を把握し、その時に必要なサービスはなにか、見極める用努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>できる事はなるべくして頂き、介護が必要な方でも、職員と一緒にならできないことがないか色々工夫している。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>情報を共有したり、家族と本人との関係を理解することで、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族に協力して頂いたり、会話の中で馴染みの人や場所について話をしたり工夫している。</p>	<p>入居者は市内の方ばかりで、馴染みの面会者は多い、面会の方については予め家族の了解を得るようにして、混乱が起きないようにしている。個室ばかりでなく、ソファやテーブルのある広いリビングで過ごしていただくように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者個々の性格を把握し、必要時には職員が間に入る等して、利用者同士が交流を図れるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>相談があれば、支援している。</p>		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普通の会話の中で、一人ひとりの思いや希望を聞きだせるよう努めており、困難な場合には、表情や言葉等から汲み取るようにしている。	職員は日常の会話の中や表情でひとり一人の思いや、やりたい事を把握するように、寄り添った支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や、今まで関わりのあった方に話を聞くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の生活パターン等を把握できるよう、日々の状態を記録に残す等している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、主治医、職員等、本人に関わりのある方の意見を聞き、現状を見極めて介護計画を作成するよう努めている。	ケース担当者が予め家族の希望を聞き取り、主治医の意見書、看護師、職員を交えて担当者会議を行い、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を細かく記録に残し、その記録を参考にしながら、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々本人の状態にあったサービスがあれば検討することもある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の残存機能を維持していけるよう、支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	係りつけの病院は、家族や本人の意思に添って対応している	入居時にホームのかかりつけ医の説明を行い、殆どの方がホームのかかりつけ医に月1回の往診を受けている。1～2名の方は入居前の医師を希望され、職員が通院に同行している。時間を要する病院には家族の協力をお願いしている。	

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の状態で気付き等あれば、看護師に細かく報告し、指示を頂くようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中の状況等を把握するため、医療機関と連絡を取っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>日々の利用者の状態を、家族に細めに報告している。必要時には主治医からも説明して頂き、早い段階から方針を共有していけるよう努めている。</p>	<p>今年度は今までにお二人の看取りを行った。入居年数も長く、ホームに馴染んでおられ、家族よりも切に希望され看護師を中心に看取りが出来、職員は不安もあったが貴重な経験をしたとの感想があった。法人としての現状は重度化された場合は協力病院に搬送の方針とされている。</p>	<p>今後もホーム入居者の高齢化が進む中、職員全員が重度化や終末期の対応について、看護師を交えて支援の学びの場を持たれることが望まれる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>外部の研修に参加したり、看護師の指導も受けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を定期的に行ったり、運営推進会議等で地域の方にも協力して頂けるよう話しをしている。</p>	<p>今年度より防火管理者をホームの職員が担当している。1階のデイスサービスを交えて合同避難訓練を行っている。運営推進会議で提案要望はしているが、近隣よりの参加は未だ頂いていないので、続いて提案し検討していただく予定である。</p>	<p>運営推進会議に消防署より参加を得て、参加者のみなさんに災害対策の説明をして頂いた後、訓練時にも消防署の参加指導を頂いて、夜間想定避難訓練をされる事が期待される。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>言葉かけや対応については、日頃から職員間で注意し、個々が意識をもって行うよう努めている。</p>	<p>食事介助、投薬介助時等、職員は明るく優しい声掛けをされ、利用者は快く応じられて和やかな雰囲気を持たれている。トイレ介助には特に配慮している旨面談職員より伝えられた。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>可能な限り、本人の意思を尊重し対応している。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>今までの生活環境や、生活パターンが異なるため、その事を理解したうえで、利用者本位の生活の流れを大切にしている。</p>		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の要望があれば、必要な物品を家族に伝えて準備して頂くようにしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや後片付け等一緒に行っている。	食材は法人の管理栄養士より配信された献立で材料を購入し、その日の当番職員が調理を行う。以前は入居の方が食事準備を手伝わっていたが、老化が進まれ、今は食器の片付けのみされる。季節の行事に合わせたおやつを入居者と共に作り喜んでもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況が分かるように記録を残している。その日の体調に応じて食事の形態を変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者個々にあった口内ケアを毎食後行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限り、トイレでの排泄を促している。必要時には医師に相談している。	一人、ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を主軸として、排泄の支援をしている。昼間は成るだけ布パンツにパットをして、自立に繋げるようにしている。病院よりおむつで退院された方が、きめ細かな排泄支援で尿意が戻られ、トイレで立位で排泄されるようになった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者個々で便秘の原因が違うため、原因を究明し、色々工夫したり、医師に相談している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、本人の希望にそえるよう努めている。	希望されればいつでも入浴は出来るようにしているが、入浴を拒否される方も多く、楽しい会話の中で入浴を促したりして、個人個人の健康状況を配慮しつつ、週に2～3回は入浴してもらって清潔の保持をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣や、その日の体調を把握し、その時の状況に応じて休息できるよう環境を整える等している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の効能や副作用等は処方箋を確認したり、看護師に聞いたりしている。薬の変更があった場合には、状態に変化がないか細めに観察している。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの習慣や趣味等、続けて行っていただけるよう必要な物品を準備したり、できる事は毎日継続して行えるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族に協力して頂いたり、行事を計画して外出する機会を作る等気分転換できるよう工夫している。	ホームが畑地や田んぼに囲まれ、車の危険もなく、四季折々の風景に触れるよう、ホームの周りの農道を日常の散歩コースとしている。ホーム全体では、お花見や外食、おやつバイキング等に体調を考慮しながら出来るだけ参加してもらって支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があれば、お金を所持していただいているが、紛失する可能性もあることを家族に説明している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話をしたり、手紙のやり取りも支援している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が安心して、ゆったりと過ごして頂けるよう環境面には配慮しており、季節の物を一緒に手作りしたり飾ったりしている。	幅広く見通しの良い廊下に続き、広く採光の良いリビングにゆったりしたソファとテーブルが置かれ、利用者は車椅子や歩行器で廊下を行き来され、ソファで一休みされる光景が見受けられた。秋季、冬季には食堂に加湿器を2～3台設置し湿度40度以上になるよう配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室が全て個室で、一人になれる空間があり、リビングにはソファが設置してあるため、気のあった利用者同士でくつろぐこともできる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活空間に近づけることで安心感を与えることができるため、今まで使用していた生活用品等は、家族や本人と相談しながら、持ち込んで頂いている。	広い廊下に沿った居室は広めのドアで仕切られ、自走車椅子の出入りの容易さが見受けられた。部屋には自宅で使用されていた椅子や小型家具が持ち込まれ、ご本人に合った生活空間が用意されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	少しでも残存機能を維持していけるよう、トイレや浴室には手すりがついており、すれ違う時に接触しないよう廊下のスペースが広がっている。		

グループホーム田口

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム田口

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム田口

作成日 平成 25 年 11月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	定期的な避難訓練は行っているが、消防署と合同での訓練があまりできていない。	避難方法の習得	定期的に消防署と合同で訓練を行っていく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。